

令和4年度 高知県・高知市 知事・市長及び教育長連携会議

高知県教育委員会

説明資料

資料1：学力向上の取組の成果と課題、今後の取組（デジタル技術の活用を含む）について

資料2：不登校対策について



学力向上の取組の成果と課題、今後の取組(デジタル技術の活用を含む)について

令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果について

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- ◇ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- ◇ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- ◇ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

(2) 実施日 令和4年4月19日(火)

(3) 調査内容

- ◇ 小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒を対象
- ◇ 教科に関する調査は、国語、算数・数学、理科を出題

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等

②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等

- ◇ 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査を実施

(4) 県内(公立学校)の参加状況

- ◇ 参加学校数

小学校

市町村(学校組合)立小学校	義務教育学校	特別支援学校(小学部)	合計
178校	4校	2校	184校

中学校

市町村(学校組合)立中学校、 県立中学校	義務教育学校	特別支援学校(中学部)	合計
93校	4校	5校	102校

<参加校数>

・小中学校	271校
・義務教育学校	4校
・特別支援学校	5校
計	280校

※義務教育学校は、小・中学校の義務教育を9年間の一貫したカリキュラムで運営する学校であり、小・中ともに実施する学校が4校であるため、合計が4校となっている。

※特別支援学校は、1校の中に小学部や中学部があり、小学部・中学部ともに実施する学校が2校、中学部のみ実施する学校が3校であるため、合計が5校となっている。

※新型コロナウイルス感染症による後日実施校数 小学校3校

- ◇ 小学校解答(回答)児童数

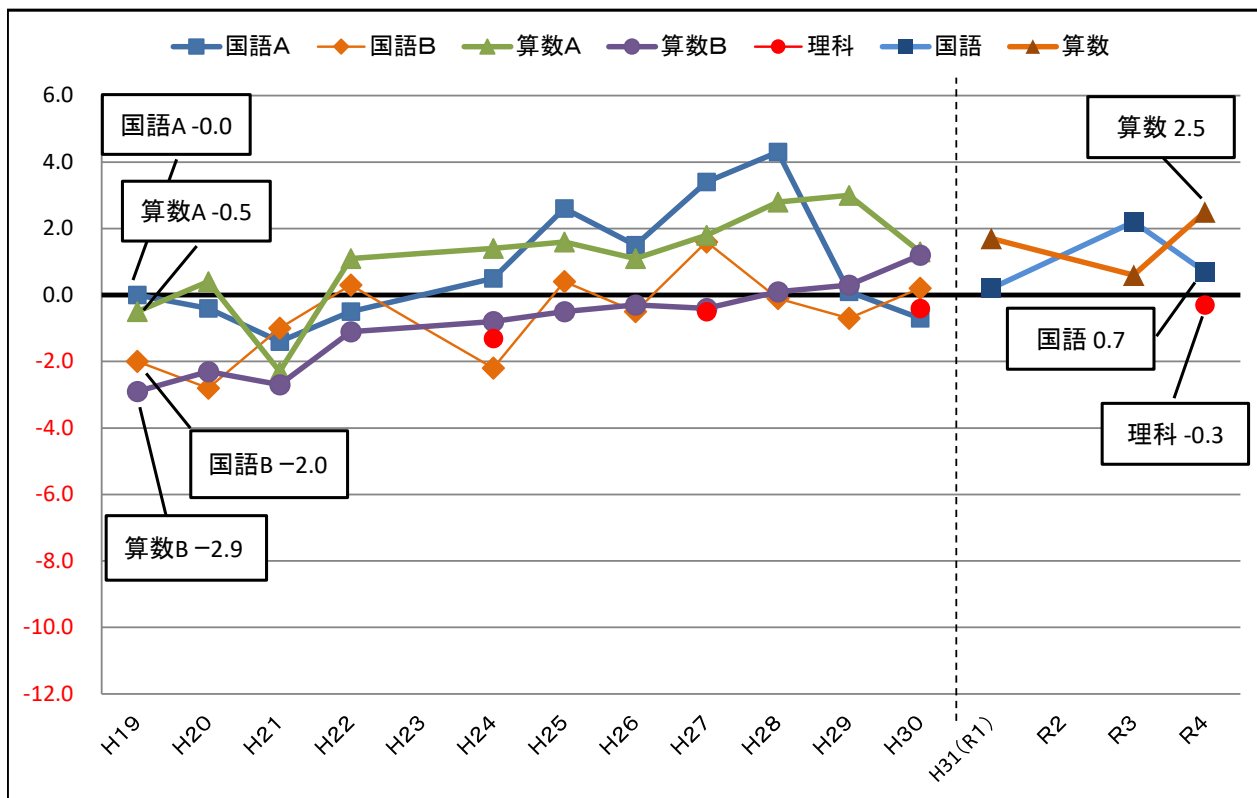
国語	4,779名
算数	4,777名
理科	4,780名
児童質問紙	4,793名

- ◇ 中学校解答(回答)生徒数

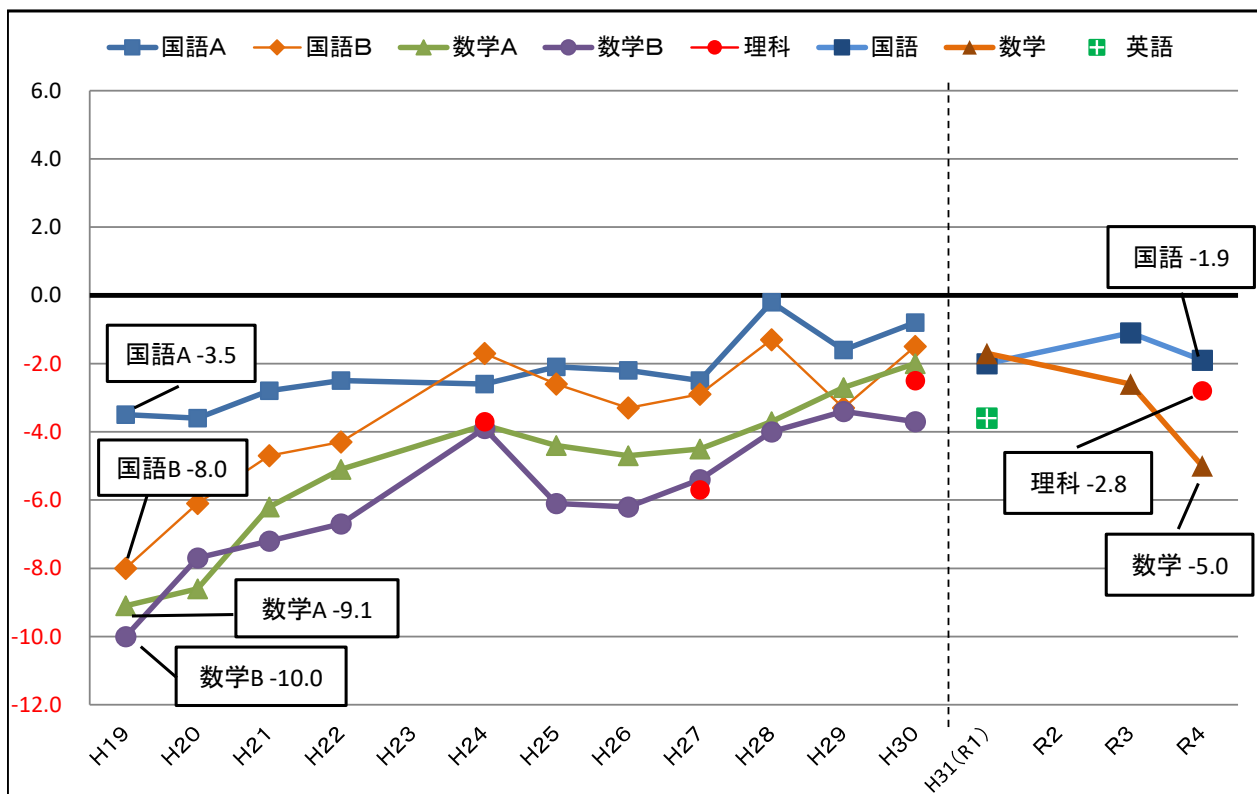
国語	3,921名
数学	3,919名
理科	3,925名
生徒質問紙	3,932名

平成19年～令和4年度 全国平均正答率との差(高知県平均正答率)

小学校調査



中学校調査



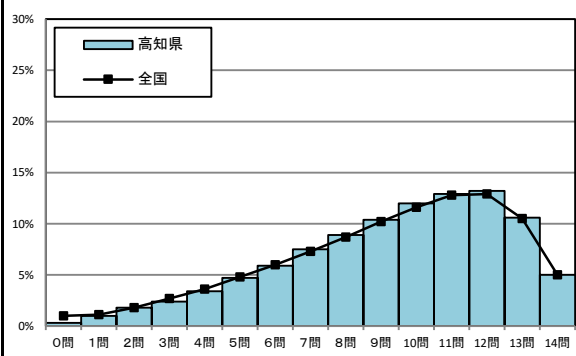
※縦軸は全国の平均正答率との差をポイントで示している。(平成23年度の全国の値はない。)
 ※平成31年度(令和元年度)よりABが統合。
 ※令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により調査を中止している。

各教科に関する学力の状況

[小学校国語]

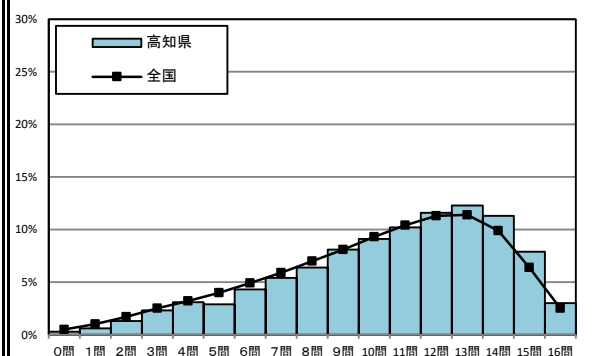
正答数分布の状況

国語	児童数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
高知県	4,779	9.3/14	66.3%	10.0	3.1
全国	965,308	9.2/14	65.6%	10.0	3.3

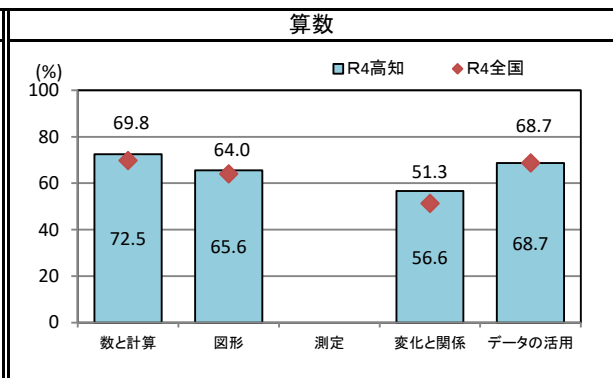
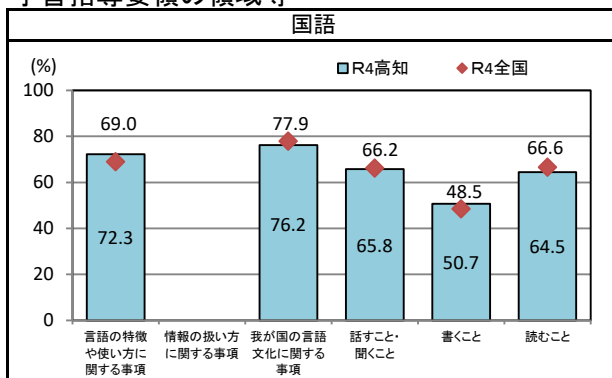


[小学校算数]

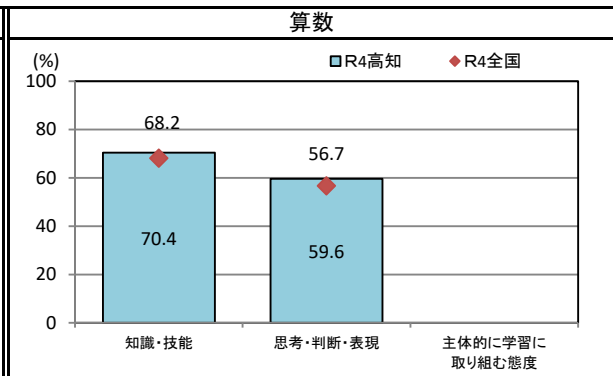
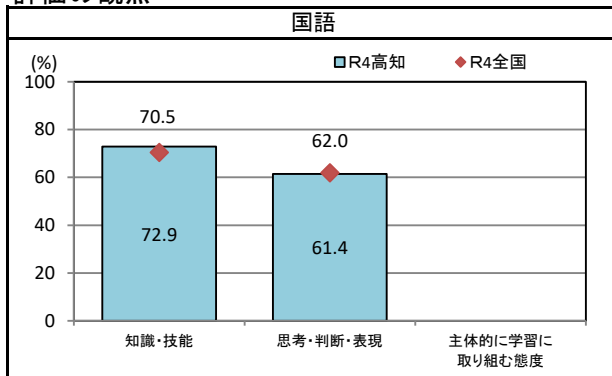
算数	児童数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
高知県	4,777	10.5/16	65.7%	11.0	3.5
全国	965,431	10.1/16	63.2%	11.0	3.6



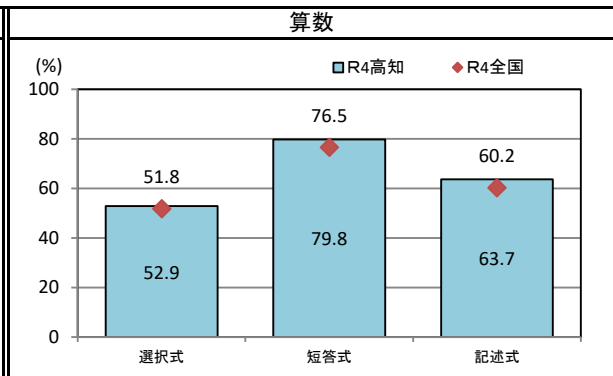
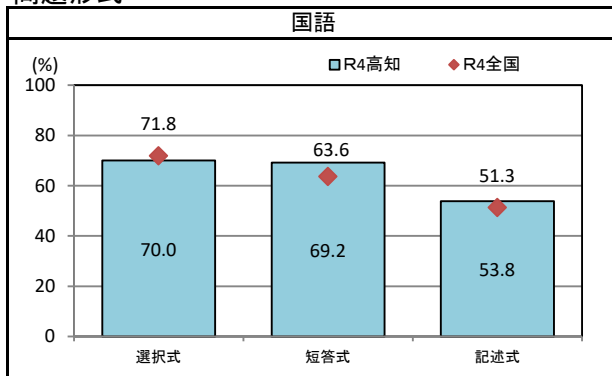
学習指導要領の領域等



評価の観点



問題形式

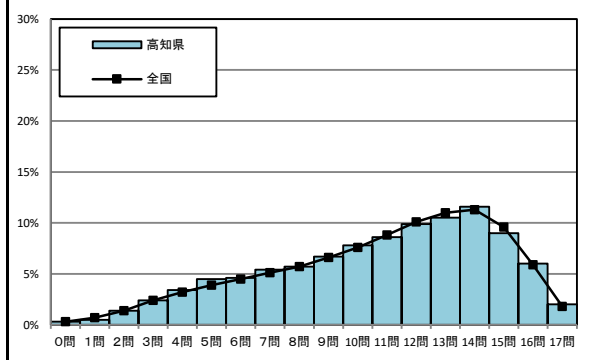


各教科に関する学力の状況

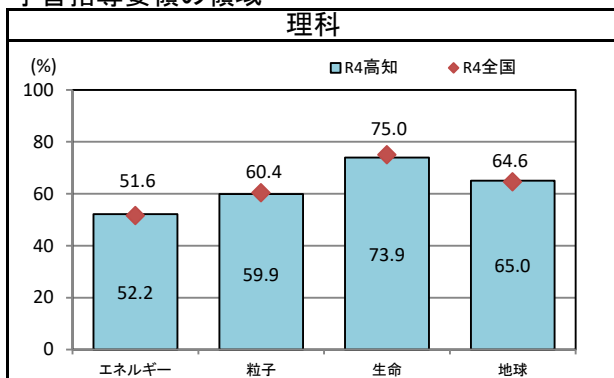
[小学校理科]

正答数分布の状況

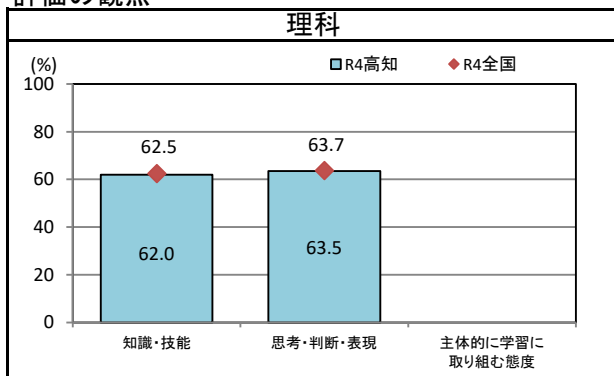
理科	生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
高知県	4,780	10.7/17	63.0%	11.0	3.8
全国	965,761	10.8/17	63.3%	11.0	3.8



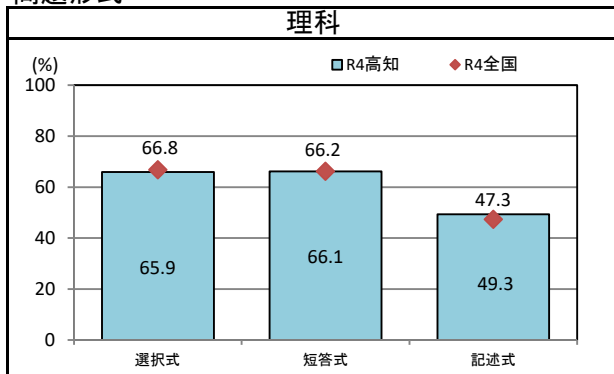
学習指導要領の領域



評価の観点



問題形式

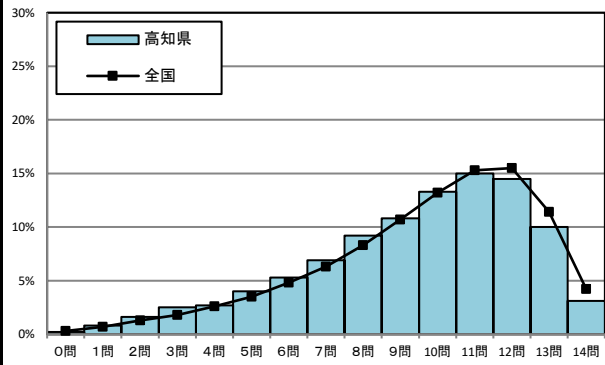


各教科に関する学力の状況

〔中学校国語〕

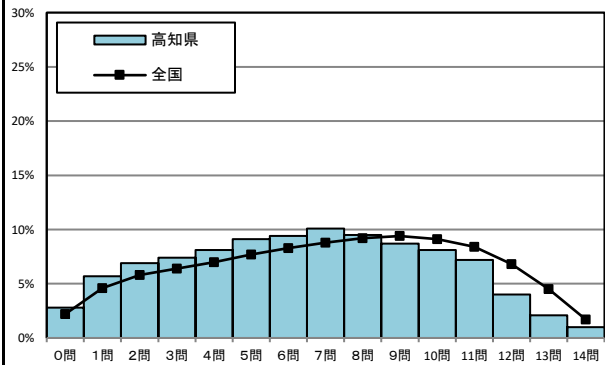
正答数分布の状況

国語	生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
高知県	3,921	9.4/14	67.1%	10.0	3.0
全国	891,820	9.7/14	69.0%	10.0	2.9

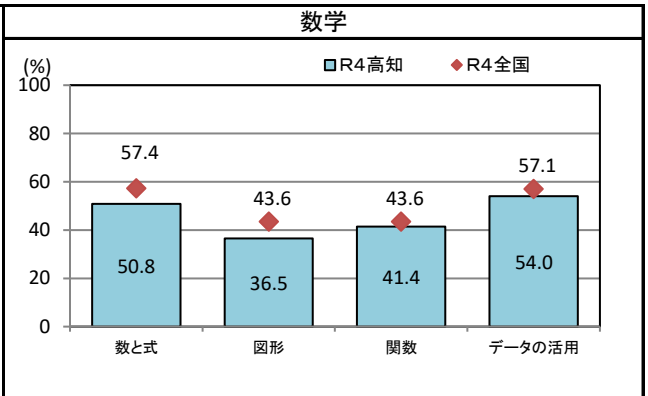
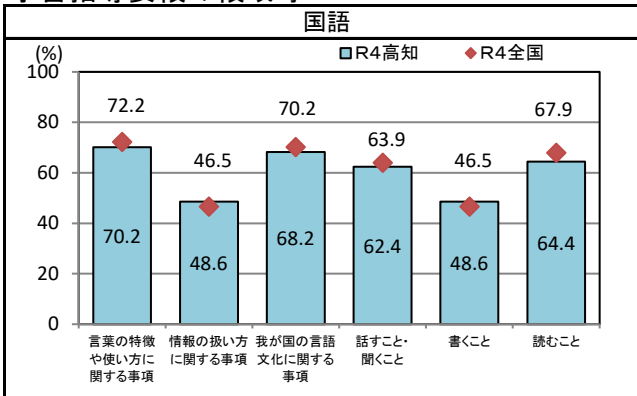


〔中学校数学〕

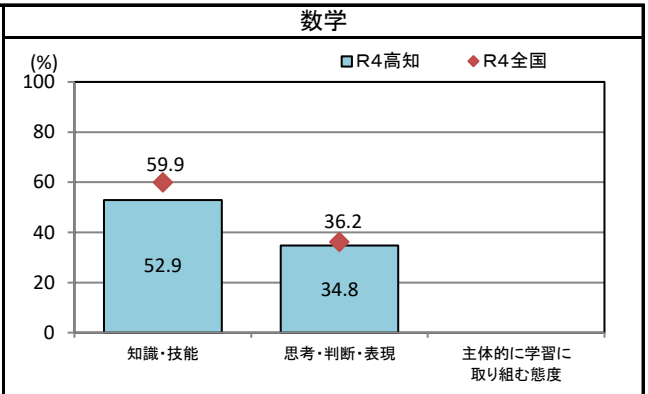
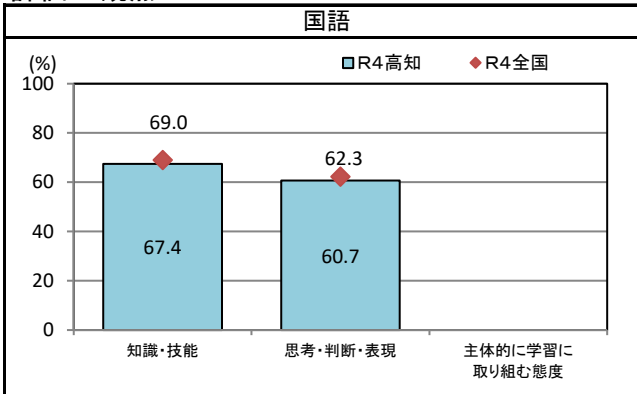
数学	生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
高知県	3,919	6.5/14	46.4%	7.0	3.4
全国	891,913	7.2/14	51.4%	7.0	3.6



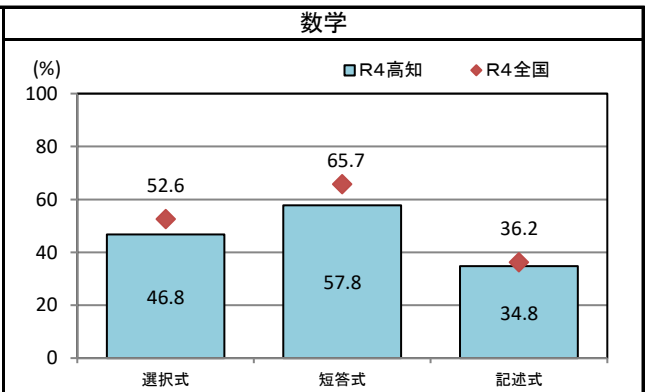
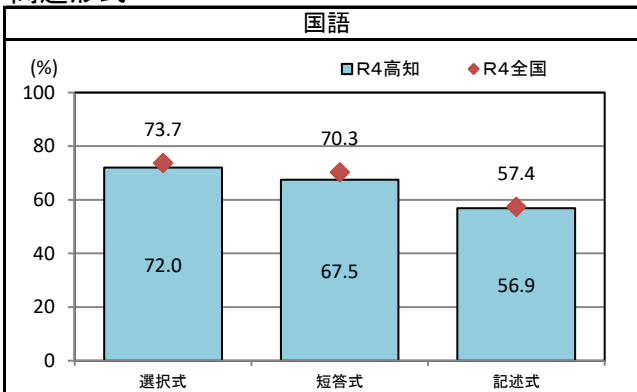
学習指導要領の領域等



評価の観点



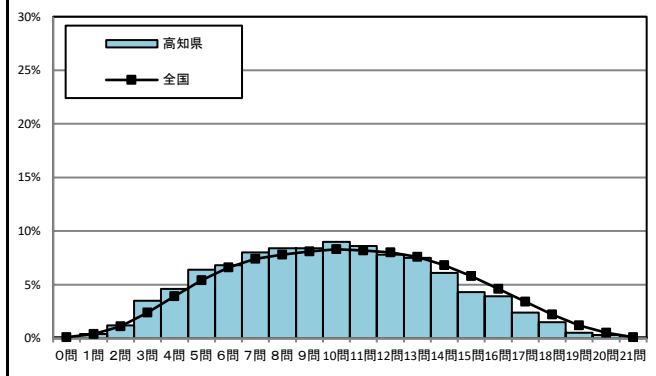
問題形式



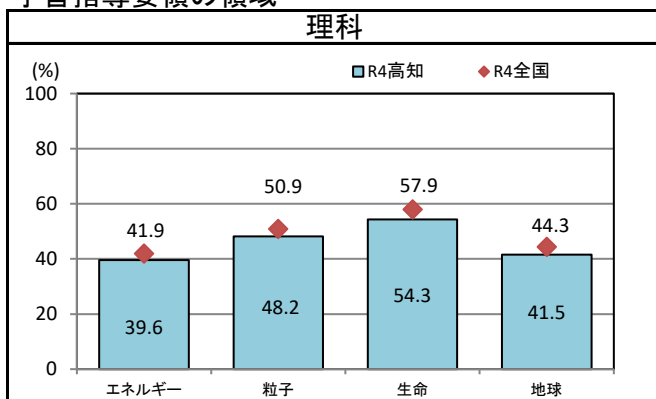
各教科に関する学力の状況

〔中学校理科〕 正答数分布の状況

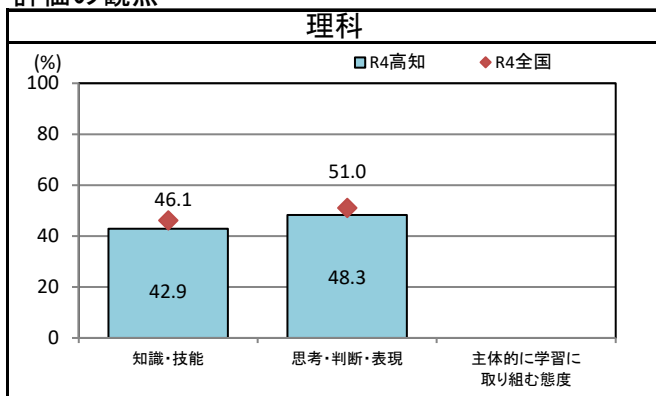
理科	生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
高知県	3,925	9.8/21	46.5%	10.0	4.0
全国	892,585	10.4/21	49.3%	10.0	4.1



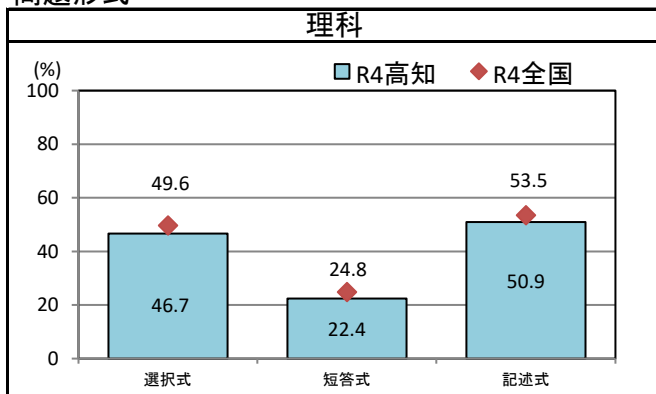
学習指導要領の領域



評価の観点



問題形式

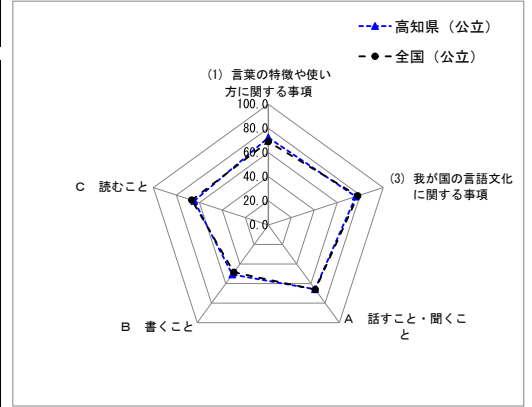


・以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	高知県（公立） 183	全国（公立） 18,668	対象児童数	高知県（公立） 4,779	全国（公立） 965,308
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			高知県（公立）	全国（公立）	
全体			14	66.3	65.6
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	5	72.3	69.0
		(2) 情報の扱い方にに関する事項	0		
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	76.2	77.9
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	2	65.8	66.2
B 書くこと		2	50.7	48.5	
C 読むこと		4	64.5	66.6	
評価の観点	知識・技能	6	72.9	70.5	
	思考・判断・表現	8	61.4	62.0	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	8	70.0	71.8	
	短答式	3	69.2	63.6	
	記述式	3	53.8	51.3	

<学習指導要領の内容の平均正答率の状況>



※「学習指導要領の内容」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があります。それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合があります。

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容			評価の観点	問題形式	正答率(%)			無解答率(%)			
			知識及び技能					思考力、判断力、表現力等	高知県（公立）	全国（公立）	全国正答率との差	高知県（公立）	全国（公立）	
			(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	(2) 情報の扱い方にに関する事項	(3) 我が国の言語文化に関する事項									
1一	【話し合いの様子の一部】における谷原さんの発言の理由として適切なものを選択する	話し言葉と書き言葉との違いを理解する	5・6 イ				○	○	○	84.7	85.5	-0.8	0.3	0.9
1二	【話し合いの様子の一部】における谷原さんや中村さんの発言の理由として適切なものを選択する	言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える	5・6 ア				○	○	○	69.2	68.8	0.4	0.3	1.0
1三	【話し合いの様子の一部】で、中村さんが前田さんに質問し、知りたかったことの説明として適切なものを選択する	必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える			3・4 エ		○	○	○	82.8	84.7	-1.9	0.4	1.0
1四	「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで、□に入る内容を書く	互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる			5・6 オ		○		○	48.7	47.7	1.0	2.3	3.0
2一(1)	「ぼく」の気持ちの説明として適切なものを選択する	登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える				3・4 イ	○	○	○	66.3	68.4	-2.1	0.3	1.0
2一(2)	「老人」が未来の「ぼく」と考えられるところとして適切なものを選択する	登場人物の相互関係について、描写を基に捉える				5・6 イ	○	○	○	66.8	70.6	-3.8	0.7	1.6
2二	物語から伝わってくることを考え、【森田さんの文章】の□に入る内容を書く	人物像や物語の全体像を具体的に想像する				5・6 エ	○		○	69.3	68.3	1.0	9.1	12.2
2三	【山村さんの文章】の□に入る内容として適切なものを選択する	表現の効果を考える				5・6 エ	○	○	○	55.8	59.2	-3.4	1.8	3.2
3一	【文章2】の□の部分で、どのようなことに気を付けて書いたのか、適切なものを選択する	文章全体の構成や書き方などに着目して、文や文章を整える				5・6 オ	○	○	○	58.1	59.2	-1.1	1.0	2.5
3二	【伝え合いの様子の一部】を基に、【文章2】のよさを書く	文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける				5・6 カ	○		○	43.3	37.7	5.6	9.9	14.5
3三ア	【文章2】の中の□部アを、漢字を使って書き直す（ろくが）	学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う	5・6 エ				○		○	71.0	65.2	5.8	4.3	8.1
3三イ	【文章2】の中の□部イを、漢字を使って書き直す（ほんせい）		5・6 エ				○		○	65.9	58.7	7.2	5.0	10.2
3三ウ	【文章2】の中の□部ウを、漢字を使って書き直す（したしむ）		5・6 エ				○		○	70.6	67.1	3.5	8.7	14.7
3四	（一）から（二）に書き直した際、気を付けた内容として適切なものを選択する	漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く			3・4 エ（イ）		○	○	○	76.2	77.9	-1.7	2.5	5.9

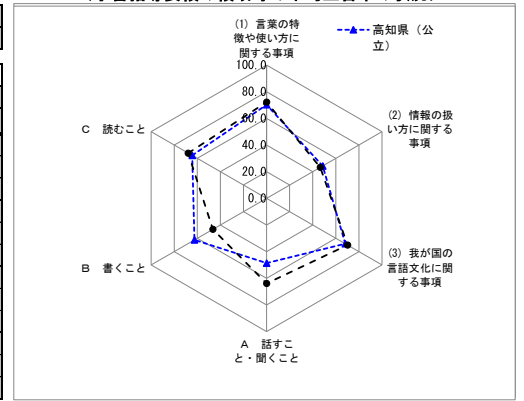
・以下の集計値/グラフは、4月19日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数		高知県 (公立)	全国 (公立)	対象生徒数		高知県 (公立)	全国 (公立)
		102	9,340			3,921	891,820

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)		
			高知県 (公立)	全国 (公立)	
全体					
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	6	70.2	72.2
		(2) 情報の扱いに関する事項	1	48.6	46.5
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	3	68.2	70.2
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	62.4	63.9
		B 書くこと	1	48.6	46.5
		C 読むこと	2	64.4	67.9
評価の観点	知識・技能	10	67.4	69.0	
	思考・判断・表現	6	60.7	62.3	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	6	72.0	73.7	
	短答式	5	67.5	70.3	
	記述式	3	56.9	57.4	

＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞



※「学習指導要領の内容」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があります。それぞれの区分について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合があります。

問題別集計結果

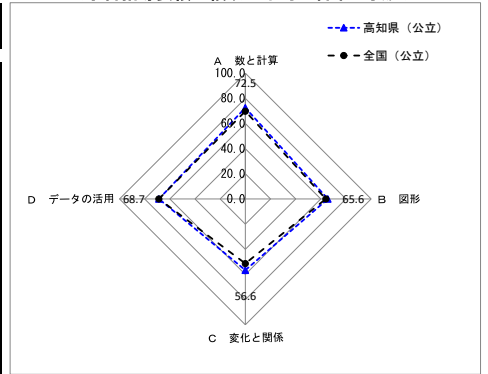
問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容			評価の観点	問題形式	正答率 (%)			無解答率 (%)				
			(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	(2) 情報の扱いに関する事項	(3) 我が国の言語文化に関する事項			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	高知県 (公立)	全国 (公立)	全国正答率との差 (公立)	高知県 (公立)	全国 (公立)
1一	スピーチの一部を呼びかけたり問いかけたりする表現に直す	聞き手の興味・関心などを考慮して表現を工夫する。			1ウ				73.5	74.7	-1.2	4.0	3.8		
1二	話の進め方のよさを具体的に説明したものとして適切なものを選択する	論理の展開などに注意して聞く			2エ				63.2	65.1	-1.9	0.1	0.1		
1三	スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのか、そのように話す意図を書く	自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す	1ア		1ウ				50.3	51.8	-1.5	12.5	16.2		
2一	意見文の下書きの一部について、文末の表現を直す意図として適切なものを選択する	助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使う			2オ				82.2	82.3	-0.1	0.2	0.2		
2二①	漢字を書く (㊟ぞく)	文脈に即して漢字を正しく書く			2ウ				79.6	82.1	-2.5	7.3	8.8		
2二②	漢字を書く (よろこんで)		2ウ						78.8	80.5	-1.7	2.5	3.3		
2三	農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く		1イ	1ウ				48.6	46.5	2.1	7.9	9.0		
3一	「隣あそばさいに揺らめきながら」に使われている表現の技法の名称を書き、同じ表現の技法が使われているものを選択する	表現の技法について理解する			1オ				48.2	52.5	-4.3	0.3	0.7		
3二	「途方に暮れた」の意味として適切なものを選択する	事象や行為、心情を表す語句について理解する			1ウ				81.8	84.0	-2.2	0.2	0.3		
3三	話の展開に沿って「おれ」の行動や心情を並べ替える	場面の展開や、登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える			1イ				57.1	62.0	-4.9	0.7	1.0		
3四	「おれ」は何を「なるほど」と思ったのかについて、話の展開を取り上げて書く	場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する			1ウ				71.6	73.8	-2.2	11.0	13.3		
4一	行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する	行書の特徴を理解する			1エ(4)				38.0	39.4	-1.4	0.7	0.9		
4二	最初に書いた文字の漢字のバランスについて説明したものとして適切なものを選択する	漢字の行書の読みやすい書き方について理解する			2ウ(7)				88.1	90.1	-2.0	0.7	1.0		
4三	書き直した文字の「と」の書き方について説明したものとして適切なものを選択する	漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する			2ウ(7)				78.4	81.1	-2.7	0.8	1.1		

・以下の集計値/グラフは、4月19日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	高知県(公立)	全国(公立)	対象児童数	高知県(公立)	全国(公立)
	183	18,667		4,777	965,431
分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			高知県(公立)	全国(公立)	
全体		16	65.7	63.2	
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	72.5	69.8	
	B 図形	4	65.6	64.0	
	C 測定	0			
	C 変化と関係	4	56.6	51.3	
	D データの活用	3	68.7	68.7	
評価の観点	知識・技能	9	70.4	68.2	
	思考・判断・表現	7	59.6	56.7	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	6	52.9	51.8	
	短答式	6	79.8	76.5	
	記述式	4	63.7	60.2	

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があります。それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合があります。

問題別集計結果

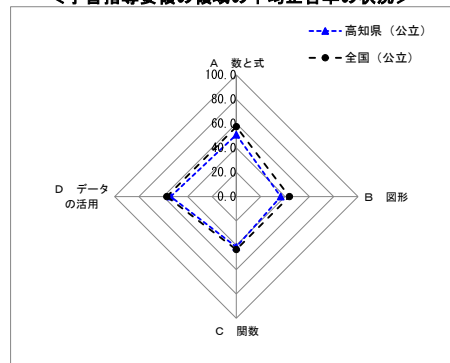
問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			正答率(%)					無解答率(%)	
			A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	高知県(公立)	全国(公立)	全国正答率との差	高知県(公立)	全国(公立)		
1(1)	1050×4を計算する	被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることができる	3(1) ア(ア)										92.5	92.4	0.1	0.1	0.3			
1(2)	14と21の最小公倍数を求める	二つの数の最小公倍数を求めることができる	5(1) ア(イ)										74.8	72.2	2.6	1.3	3.0			
1(3)	カップケーキ7個分の値段を、1470÷3で求めることができるわけを書く	示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる	3(4) イ(ア)										80.4	76.0	4.4	3.1	5.2			
1(4)	85×21の答えが1470より必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選ぶ	示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる	4(2) イ(ア)										38.2	34.8	3.4	0.3	0.9			
2(1)	果汁が25%含まれている飲み物の量を基にしたときの、果汁の量の割合を分数で表す	百分率で表された割合を分数で表すことができる				5(3) ア(イ)							79.7	71.1	8.6	1.9	3.9			
2(2)	果汁が40%含まれている飲み物の量が1000mLのときの、果汁の量を書く	百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができる				5(3) ア(イ)							68.6	64.6	4.0	1.8	3.3			
2(3)	果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶ	示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している				5(3) ア(ア)							23.7	21.4	2.3	0.5	1.1			
2(4)	果汁が30%含まれている飲み物に果汁が180mL入っているときの、飲み物の量の求め方と答えを書く	伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述できる				5(1) イ(ア)							54.2	48.0	6.2	3.5	5.5			
3(1)	表のしりとり欄に入る数を求める式と答えを書く	表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができる	4(6) ア(ア)										78.8	75.3	3.5	1.4	2.1			
3(2)	分類整理されたデータから、全員の希望が一つは通るように、遊びを選ぶ	分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察できる											62.0	63.9	-1.9	0.7	1.6			
3(3)	1年生と6年生が希望する遊びの割合を調べるためのグラフを選び、そのグラフから割合が一番大きい遊びを選ぶ	目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができる											65.5	66.8	-1.3	1.4	2.2			
3(4)	1年生の希望をよりかなえるためのポイント数の求め方と答えを書く	加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを記述できる	4(6) ア(ア)										70.2	67.7	2.5	5.8	8.6			
4(1)	示されたプログラムについて、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す	正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できる	3(1) ア(ア)										50.0	48.8	1.2	2.1	3.8			
4(2)	長方形のプログラムについて、向かい合う辺の長さを書く	図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解している				2(1) ア(イ)							84.4	83.2	1.2	2.8	4.7			
4(3)	辺の長さや角の大きさに着目し、ひし形をかくことができるプログラムを選ぶ	図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解している				4(1) ア(イ)							66.0	66.5	-0.5	2.4	4.6			
4(4)	示されたプログラムでかくことができる図形を選ぶ	示された作図手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できる	4(1) ア(イ)										61.9	57.6	4.3	2.7	5.1			

以下の集計値/グラフは、4月19日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	高知県(公立) 102	全国(公立) 9,339	対象生徒数	高知県(公立) 3,919	全国(公立) 891,913
分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			高知県(公立)	全国(公立)	
全体			14	46.4	51.4
学習指導要領の領域	A 数と式	5	50.8	57.4	
	B 図形	3	36.5	43.6	
	C 関数	3	41.4	43.6	
	D データの活用	3	54.0	57.1	
評価の観点	知識・技能	9	52.9	59.9	
	思考・判断・表現	5	34.8	36.2	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	4	46.8	52.6	
	短答式	5	57.8	65.7	
	記述式	5	34.8	36.2	

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



問題別集計結果

※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があります。それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合があります。

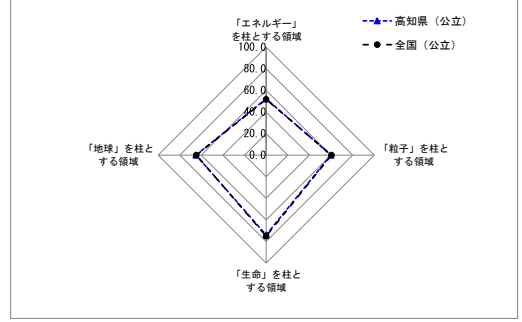
問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点	問題形式	正答率(%)			無解答率(%)	
			A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用			高知県(公立)	全国(公立)	全国正答率との差(公立)	高知県(公立)	全国(公立)
1	42を素因数分解する	自然数を素数の積で表すことができる	1 (1) ア、イ				○	○	33.9	52.2	-18.3	13.1	11.5
2	連立二元一次方程式 $\begin{cases} 2x + y = 1 \\ y = x + 4 \end{cases}$ を解く	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	2 (2) ア (ウ)				○	○	69.7	74.5	-4.8	5.4	6.1
3	ある予想がいつでも成り立つかどうかを示すことについて、正しく述べたものを選ぶ	反例の意味を理解している		2 (2) ア (イ)			○	○	36.3	44.9	-8.6	0.2	0.4
4	変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ	一次関数の変化の割合の意味を理解している		2 (1) ア (ア)			○	○	30.9	37.9	-7.0	0.2	0.4
5	容器のふたを投げたときに下向きになる確率を選ぶ	多数の観察や多数回の思考によって得られる確率の意味を理解している			1 (2) ア (ア)		○	○	80.0	83.3	-3.3	0.2	0.3
6(1)	同じ偶数の和である $2n + 2n = 4n$ について、 n が9のときどのような計算を表しているかを書く	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	2 (1) ア (イ)				○	○	70.0	73.8	-3.8	5.1	6.0
6(2)	差が4である2つの偶数の和が、4の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる	2 (1) イ (イ)			○	○	45.2	48.7	-3.5	17.0	20.0	
6(3)	ある偶数との和が4の倍数になる数について、予想した事柄を表現する	結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる	2 (1) イ (イ)			○	○	35.3	37.6	-2.3	20.8	26.2	
7(1)	コマ回し大会で使用するコマをヒストグラムの特徴を基に選び、選んだ理由を説明する	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる			1 (1) イ (ア)		○	○	42.3	44.0	-1.7	1.2	1.4
7(2)	箱ひげ図の箱が示す区間に含まれているデータの個数と散らばりの程度について、正しく述べたものを選ぶ	箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる			2 (1) ア (ア)		○	○	39.8	44.1	-4.3	0.5	0.7
8(1)	与えられたグラフにおいて、点Eの座標を書く	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる			1 (1) ア (イ)		○	○	50.2	54.6	-4.4	6.0	7.2
8(2)	目標の300kgを達成するまでの日数を求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる			1 (1) イ (イ)		○	○	43.2	38.4	4.8	16.9	24.4
9(1)	証明で用いられている三角形の合同条件を書く	証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している			2 (2) ア (ア)		○	○	65.3	73.2	-7.9	7.6	7.5
9(2)	$\angle ABE$ と $\angle CBF$ の和が 30° になる理由を示し、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも 60° になることの説明を完成する	筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる			2 (2) イ (イ)		○	○	7.8	12.5	-4.7	29.7	38.5

・以下の集計値／グラフは、4月19日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	高知県（公立） 184	全国（公立） 18,601	対象児童数	高知県（公立） 4,780	全国（公立） 965,761
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			高知県（公立）	全国（公立）	
全体			17	63.0	63.3
学習指導 要領の 区分・領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	4	52.2	51.6
		「粒子」を柱とする領域	5	59.9	60.4
	B区分	「生命」を柱とする領域	5	73.9	75.0
		「地球」を柱とする領域	5	65.0	64.6
評価の観点	知識・技能	6	62.0	62.5	
	思考・判断・表現	11	63.5	63.7	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	11	65.9	66.8	
	短答式	3	66.1	66.2	
	記述式	3	49.3	47.3	

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの区分について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の区分・領域				評価の観点	問題形式	正答率(%)			無解答率(%)	
			A区分		B区分				高知県（公立）	全国（公立）	全国正答率との差	高知県（公立）	全国（公立）
			「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域							
1 (1)	見いだされた問題を基に、観察の記録が誰のものかを選ぶ	問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる			3B(1)ア(イ)※		○	○	92.1	92.9	-0.8	0.1	0.2
1 (2)	自分の観察の記録と新たに追加された他者の観察の記録を基に、問題に対するまとめを見直して書く	自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述できる			3B(1)ア(イ)※		○	○	67.9	67.5	0.4	3.9	5.0
1 (3)	昆虫の体のつくりの特徴を基に、ナナホシテントウが昆虫であるかどうかを説明するための視点を選ぶ	昆虫の体のつくりを理解している			3B(1)ア(イ)※		○	○	72.6	73.1	-0.5	0.1	0.3
1 (4)	資料を基に、カブトムシは育ち方と主な食べ物の特徴から二次元の表のどこに当てはまるのかを選ぶ	提示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる			3B(1)ア(イ)※		○	○	73.4	76.1	-2.7	0.3	0.7
1 (5)	育ち方と主な食べ物の二次元の表から気付いたことを基に、昆虫の食べ物に関する問題を見いだして選ぶ	観察などで得た結果を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる			3B(1)ア(イ)※		○	○	63.3	65.5	-2.2	1.0	1.4
2 (1)	一定量の液体の体積を適切にはかり取る器具の名称を書く	メスリンダーという器具を理解している			5A(1)ア(ウ)※		○	○	66.4	67.8	-1.4	6.0	9.8
2 (2)	水50mlをはかり取る際に、メスリンダーに入れた水の量を正しく読み取り、さらにスポイトで加える水の量を選ぶ	メスリンダーの正しい扱い方を身に付けている			5A(1)ア(ウ)※		○	○	70.8	70.0	0.8	0.5	0.6
2 (3)	水溶液の凍り方について、実験の結果を基に、それぞれの水溶液が凍る温度を見だし、問題に対するまとめを選ぶ	自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことができる			4A(2)ア(ウ)※ 5A(1)ア(ウ)※		○	○	60.4	62.8	-2.4	0.5	1.0
2 (4)	凍った水溶液について、試してみたいことを基に、見いだされた問題を書く	自然の事象・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる			4A(2)ア(ウ)※ 5A(1)ア(ウ)※		○	○	38.8	39.3	-0.5	6.3	8.7
3 (1)	光の性質を基に、鏡を操作して、指定した方向に反射させた日光を当てることができる人を選ぶ	日光は直進することを理解している			3A(3)ア(ア)※		○	○	27.4	27.8	-0.4	0.2	0.6
3 (2)	実験の結果から、問題の解決に必要な情報が取り出しやすく整理された記録を選ぶ	問題に対するまとめを導き出すことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録している			3A(3)ア(ア)※		○	○	71.6	74.4	-2.8	0.8	1.3
3 (3)	鏡ではね返した日光の位置が変化していることを基に、継続して同じ条件で実験を行うために、実験の方法を見直し、新たに追加した手順を書く	自分で発想した実験の方法と、追加された情報を基に、実験の方法を検討して、改善し、自分の考えをもつことができる			3A(3)ア(ア)※		○	○	68.6	68.9	-0.3	3.3	5.1
3 (4)	問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書く	実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる			3A(3)ア(ア)※		○	○	41.0	35.1	5.9	7.8	11.2
4 (1)	冬の天気と気温の変化を基に、問題に対するまとめを選ぶ	観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる			4B(4)ア(ア)※		○	○	81.3	82.3	-1.0	0.7	1.0
4 (2)	夜の気温の変化について、他者の予想を基に、記録の結果を表したグラフを見直して選ぶ	予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる			4B(4)ア(ア)※		○	○	66.1	64.5	1.6	0.9	1.3
4 (3)	結果からいえることは、提示された結果のどこを分析したものかを選ぶ	観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる			4B(4)ア(ア)※		○	○	45.6	45.5	0.1	4.5	6.5
4 (4)	鉄棒に付着していた水滴と水の粒は、何が変化したものかを書く	水は水蒸気になって空気中に含まれていることを理解している			4A(2)ア(ウ)※ 4B(4)ア(イ)※		○	○	63.4	62.0	1.4	4.0	6.2

※本設問においては、思考力、判断力、表現力等をみるために用いる知識及び技能を示している。

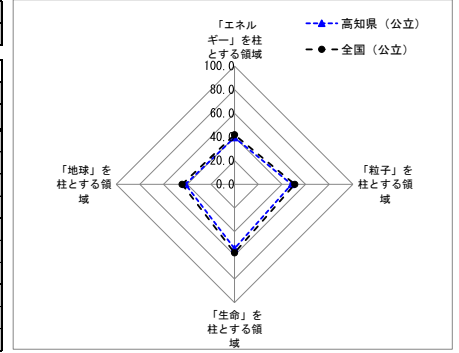
以下の集計値/グラフは、4月19日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	高知県 (公立)	全国 (公立)	対象生徒数	高知県 (公立)	全国 (公立)
	101	9,337		3,925	892,585
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)		
			高知県 (公立)	全国 (公立)	
全体		21	46.5	49.3	
学習指導要領の分野・領域	第1分野	「エネルギー」を柱とする領域	6	39.6	41.9
		「粒子」を柱とする領域	5	48.2	50.9
	第2分野	「生命」を柱とする領域	5	54.3	57.9
		「地球」を柱とする領域	6	41.5	44.3
評価の観点	知識・技能	7	42.9	46.1	
	思考・判断・表現	14	48.3	51.0	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	15	46.7	49.6	
	短答式	1	22.4	24.8	
	記述式	5	50.9	53.5	

*「学習指導要領の分野」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の分野・領域		評価の観点	問題形式	正答率 (%)					無解答率 (%)	
			第1分野	第2分野			高知県 (公立)	全国 (公立)	全国正答率との差 (公立)	高知県 (公立)	全国 (公立)		
												「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域
1 (1)	日常生活の中で、物体が静電気を帯びる現象を選択する	日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象を問うことで、静電気に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる	(3) (7)		○	○	44.6	44.2	0.4	0.1	0.1		
1 (2)	タッチパネルの反応に水が関係しているかを調べるために、変える条件と変えない条件を適切に設定した実験操作の組合せを選択する	モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できるかどうかをみる	(3) (7)		○	○	74.4	78.5	-4.1	0.1	0.1		
2 (1)	観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を空気の柱の長さで説明する際、適切な長さの変化を選択する	観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を考える学習場面において、観測地の標高を空間的に捉え、気圧の概念を空気の柱で説明できるか問うことで、気圧に関する知識及び技能を身に付けているかどうかをみる		(4) (7)	○	○	49.9	54.2	-4.3	0.2	0.2		
2 (2)	気圧、気温、湿度の変化をグラフから読み取り、雲の種類の変化と関連付けて、適切な天気図を選択する	継続的に記録した空の様子を撮影した画像と百葉箱の観測データを天気図に関連付けて、天気の変化を分析して解釈できるかどうかをみる		(4) (4)	○	○	41.8	40.8	1.0	0.2	0.3		
2 (3)	上空の気象現象を地上の観測データを用いて推論した考察の妥当性について判断する	飛行機雲の残り方を科学的に探究する学習場面において、地上の観測データを用いて考察を行った他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善できるかどうかをみる		(4) (4)	○	○	25.6	28.5	-2.9	0.3	0.3		
3 (1)	分子のモデルで表した図を基に、水素の燃焼を化学反応式で表す	化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができるかどうかをみる		(4) (4)	○	○	77.6	80.1	-2.5	0.1	0.1		
3 (2)	水素を燃料として使うしくみの例の水の質量の変化について、適切なものを選択する	水を電気分解して発生させた水素を燃料として使う仕組みを探究する学習場面において、粒子の保存性の視点から化学変化に関わる水の質量が変化しないことを、分析して解釈できるかどうかをみる		(4) (4)	○	○	58.3	60.2	-1.9	0.3	0.3		
3 (3)	水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもとを指摘する	化学変化に関する知識及び技能と「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連付け、水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもととして必要なものを分析して解釈できるかどうかをみる	(3) (7)	(4) (4)	○	○	22.4	24.8	-2.4	4.0	4.3		
4 (1)	ダイオウグモクシとダンゴムシのあしの様子が異なることについて、生活場所や移動の仕方と関連付け、その理由を説明する	節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈できるかどうかをみる		(1) (4)	○	○	73.1	74.5	-1.4	4.9	5.5		
4 (2)	脊椎動物には骨格のつくり共通点があることから、カラスの関節Aに対応するヒトとカエルのはし関節を選択する	複数の脊椎動物の外部形態の考察を行う場面において、あし骨格について共通点と多様性の見方を働かせながら比較し、共通点と相違点を分析して解釈できるかどうかをみる		(1) (4)	○	○	62.0	65.6	-3.6	0.1	0.2		
5 (1)	おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する	力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できるかどうかをみる	(1) (4)		○	○	10.9	15.3	-4.4	0.1	0.2		
5 (2)	「ばねが縮む長さは、加える力の大きさに比例するか」という課題に正対した考察を行うために、適切に処理されたグラフを選択する	課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する技能が身に付いているかどうかをみる	(1) (4)		○	○	40.2	45.0	-4.8	0.3	0.4		
5 (3)	考察の妥当性を高めるために、測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定点を増やすかを説明する	考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の視点から実験の計画を検討して改善できるかどうかをみる	(1) (4)		○	○	44.9	43.3	1.6	22.9	29.4		
6 (1)	玄武岩の露頭で化石の観察が可能か判断し、その理由を選択する	玄武岩の露頭で化石が観察できるかを問うことで、岩石に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる		(2) (7)	○	○	45.0	48.0	-3.0	0.2	0.3		
6 (2)	陸上の日地点で中生代のサンゴの化石が観察されることについて、垂直方向の変動だけで推論した他者の考察を検討し、水平方向の変動も踏まえた推論が必要であることを指摘する	過去の大地の変動について、垂直方向の移動だけで推論した他者の考察を、水平方向の移動も踏まえて、検討して改善できるかどうかをみる		(2) (4)	○	○	56.1	60.3	-4.2	0.4	0.6		
6 (3)	東西方向と南北方向の地層の断面である露頭のスケッチから、地層が傾いている向きを選択する	地層の広がり方について、時間的・空間的な見方を働かせながら、ルートマップと露頭のスケッチを関連付け、地層の傾きを分析して解釈できるかどうかをみる		(2) (4)	○	○	30.9	34.2	-3.3	0.6	0.7		
7 (1)	液体が気体に状態変化することによって温度が下がる身近な現象を選択する	液体が気体に変化することによって温度が下がる身近な現象を問うことで、状態変化に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる	(2) (7)		○	○	32.0	35.9	-3.9	0.4	0.4		
7 (2)	吸湿発熱繊維に水蒸気を多く含む空気を通した一つの実験だけで行った考察について、課題に正対しているかどうかを検討し、必要な実験を指摘する	実験の結果が考察の根拠として十分かどうかを検討し、必要な実験を指摘して、実験の計画を改善できるかどうかをみる	(2) (7)		○	○	50.7	53.4	-2.7	0.7	1.0		
8 (1)	アリが視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を基に、課題に正対した考察を記述する	アリの行列のつくり方を探究する場面において、視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行うことができるかどうかをみる		(3) (7)	○	○	50.3	55.2	-4.9	10.1	11.6		
8 (2)	予想や仮説と異なる実験の結果が出る場合、その意味することや考えられる可能性について考え、実験の操作や条件制御の不備の可能性を指摘する	予想や仮説と異なる結果が出る場合について、結果の意味を考え、観察、実験の操作や条件の制御などの探究の方法について検討し、探究の過程の見直しをもつことができるかどうかをみる		(3) (7)	○	○	50.6	55.1	-4.5	13.2	14.9		
8 (3)	生物Xが昆虫類かどうかアリと比較しながら、観点と基準を明確にして判断する	未知の節足動物とアリの外部形態を比較して共通点と相違点を捉え、分類の観点や基準を基に分析して解釈できるかどうかをみる		(1) (4)	○	○	35.7	39.2	-3.5	1.2	1.4		

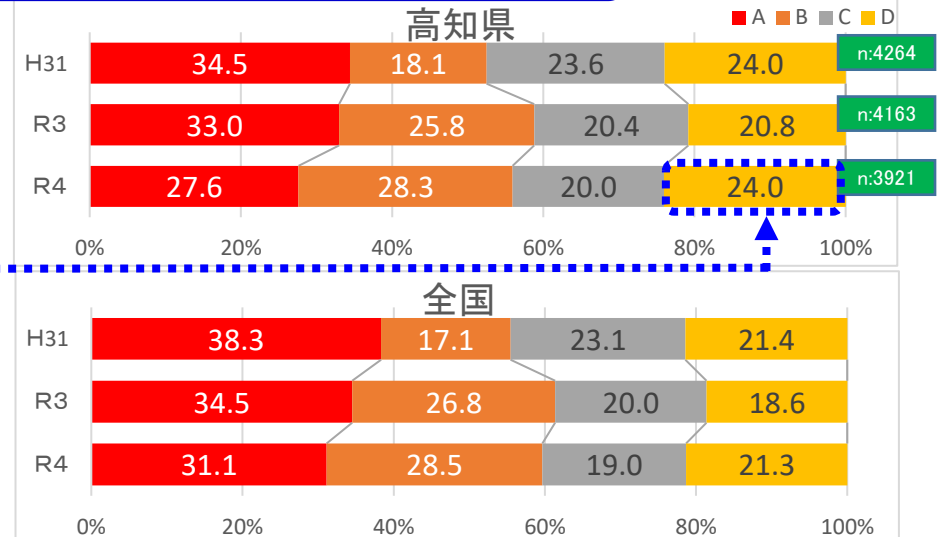
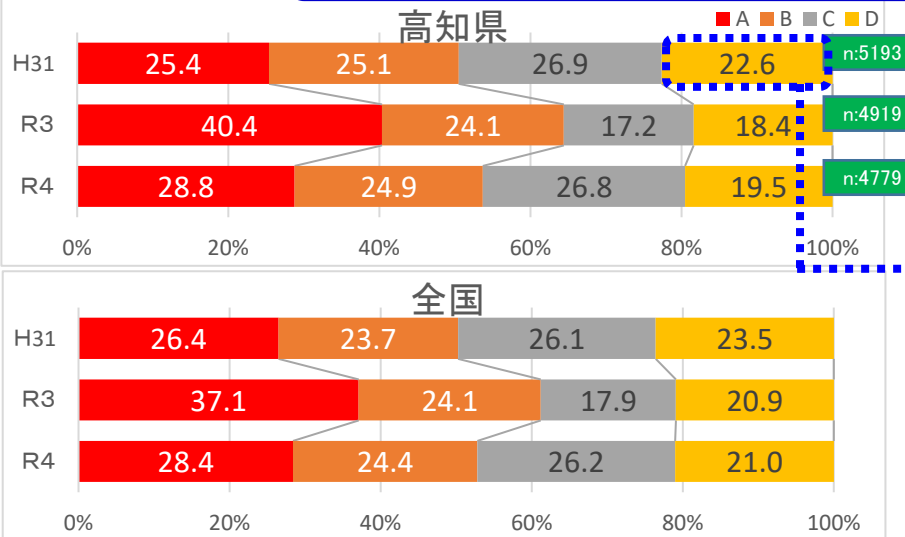
四層分析による全国学力・学習状況調査の結果（高知県と全国の比較）

文部科学省は、全国学力・学習状況調査を正答数によって、AからDの4つの層に分けている。それに、高知県の子供の状況をあてはめた。上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層と呼称する。

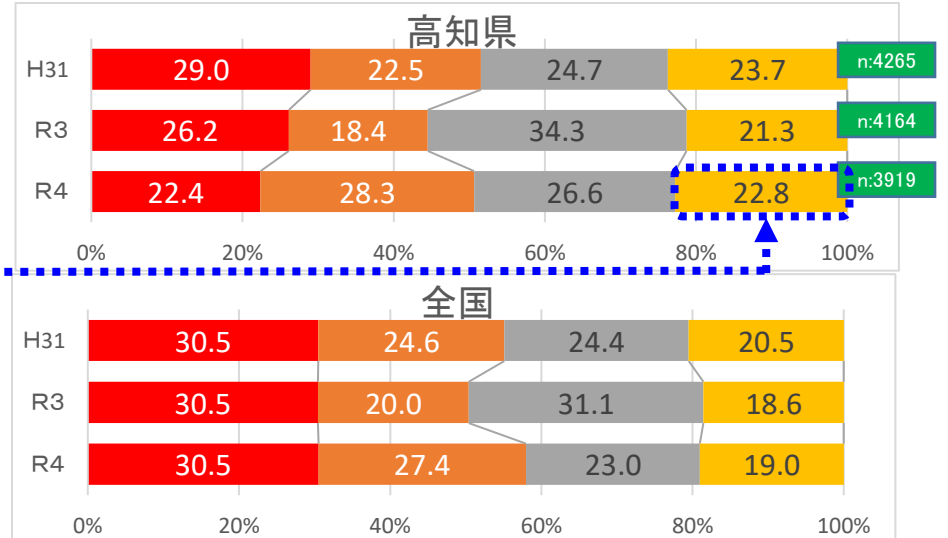
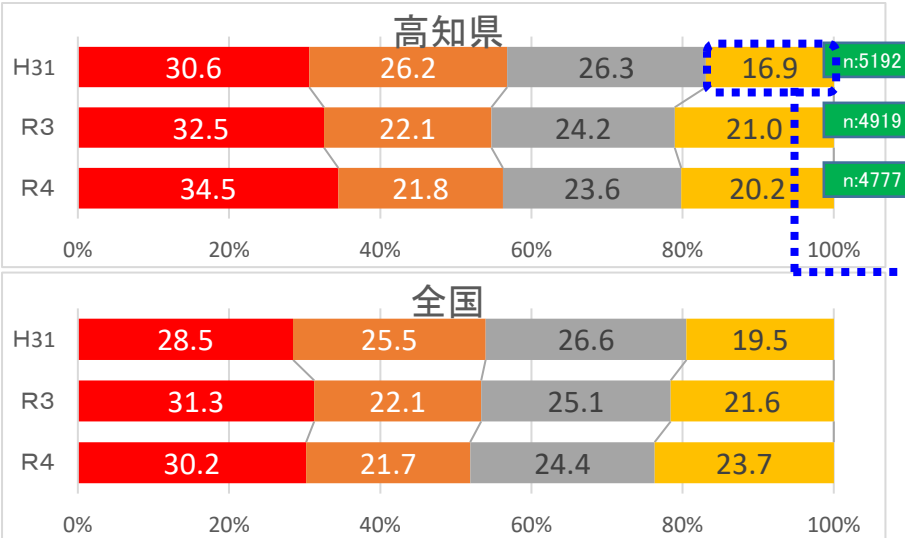
小学校

中学校

国語



算数・数学



学習習慣

児童・生徒
質問紙

(21)

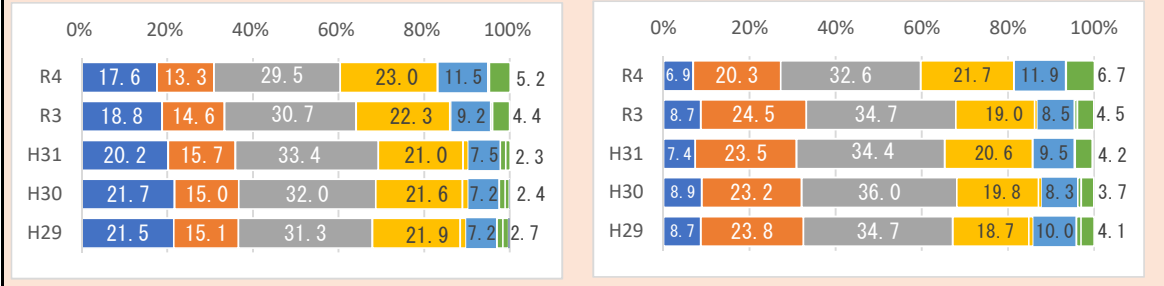
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教えている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

高知県（経年）

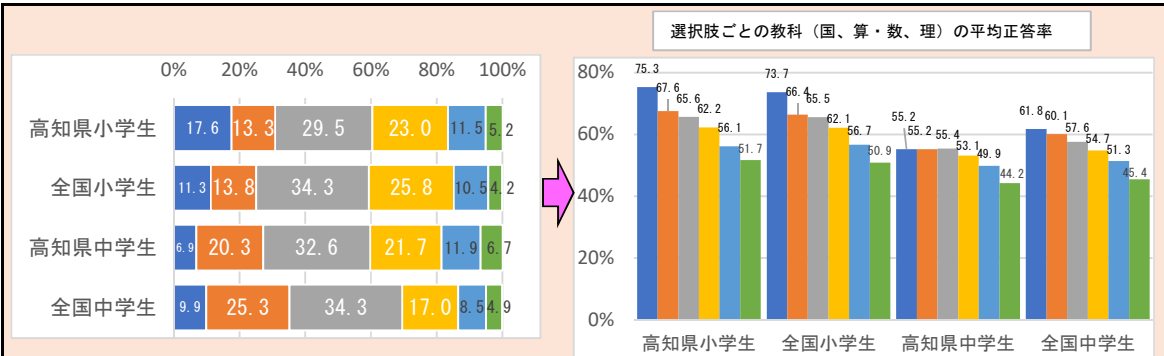
■ 3時間以上 ■ 2時間以上、3時間より少ない ■ 1時間以上、2時間より少ない
■ 30分以上、1時間より少ない ■ 30分より少ない ■ 全くしない

【小学校】

【中学校】



令和4年度調査結果から見られた質問項目（21）と正答率との相関

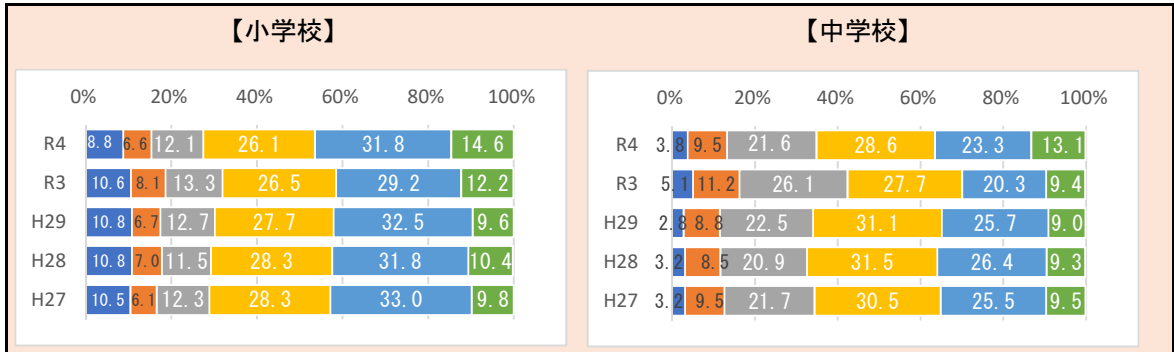


学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり、勉強する時間が長い児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向がみられる。

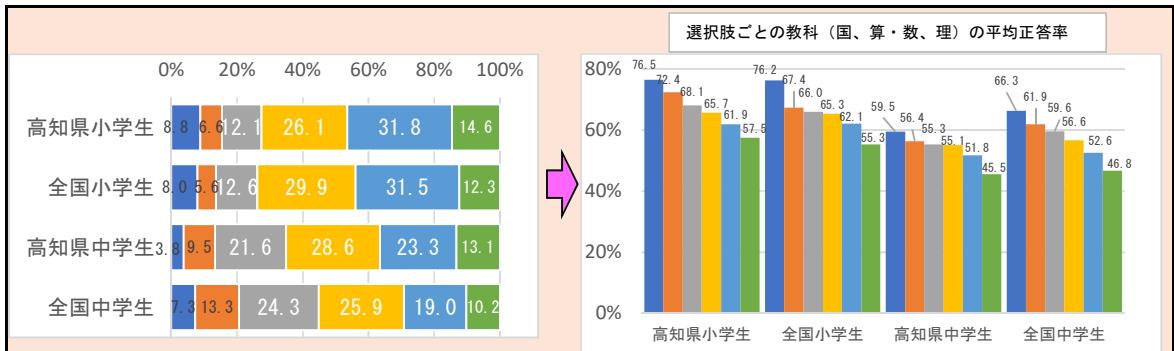
児童・生徒 質問紙	(22)	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）
--------------	------	--

高知県（経年）

■ 4時間以上 ■ 3時間以上、4時間より少ない ■ 2時間以上、3時間より少ない
 ■ 1時間以上、2時間より少ない ■ 1時間より少ない ■ 全くしない



令和4年度調査結果から見られた質問項目(22)と正答率との相関



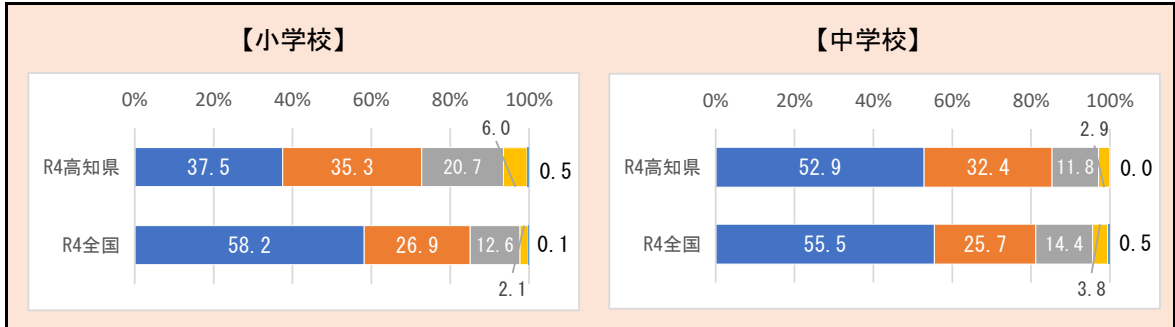
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たり、勉強をする時間が長い児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向がみられる。

ICTを活用した学習状況

学校 質問紙	(59) (57)	調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか
-----------	--------------	---

令和4年度調査結果

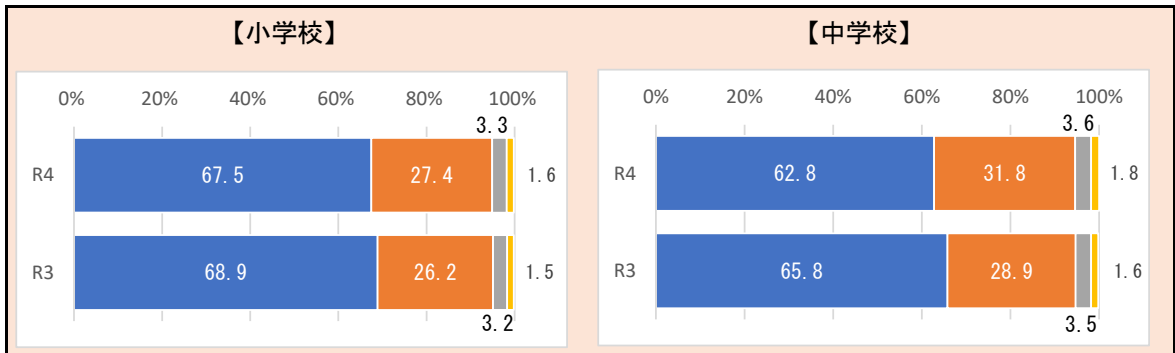
■ ほぼ毎日 ■ 週3回以上 ■ 週1回以上 ■ 月1回以上 ■ 月1回未満



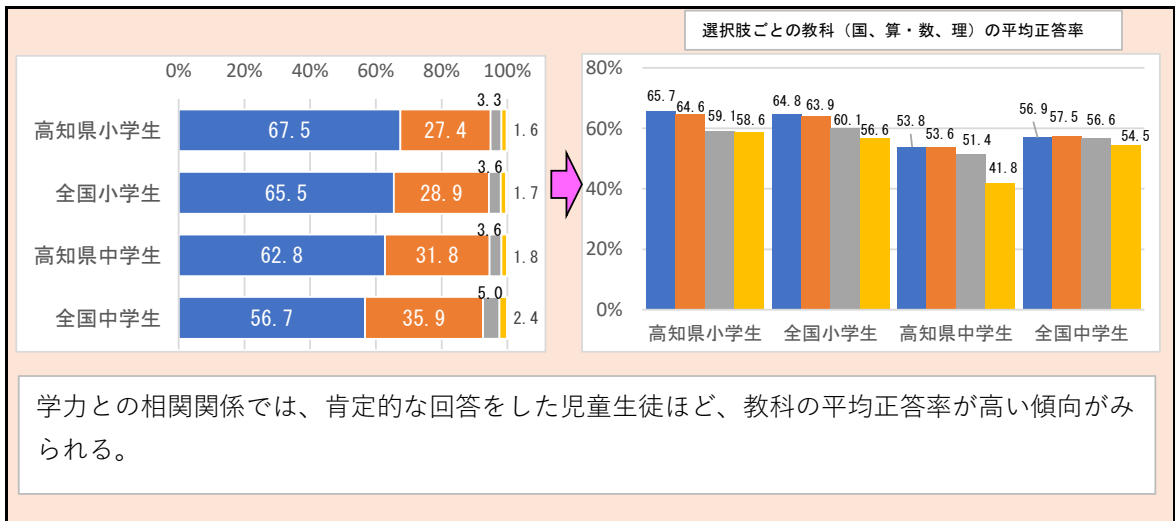
児童・生徒 質問紙	(36)	学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか
--------------	------	---

高知県（経年）

■ 役に立つと思う ■ どちらかといえば、役に立つと思う ■ どちらかといえば、役に立たないと思う ■ 役に立たないと思う



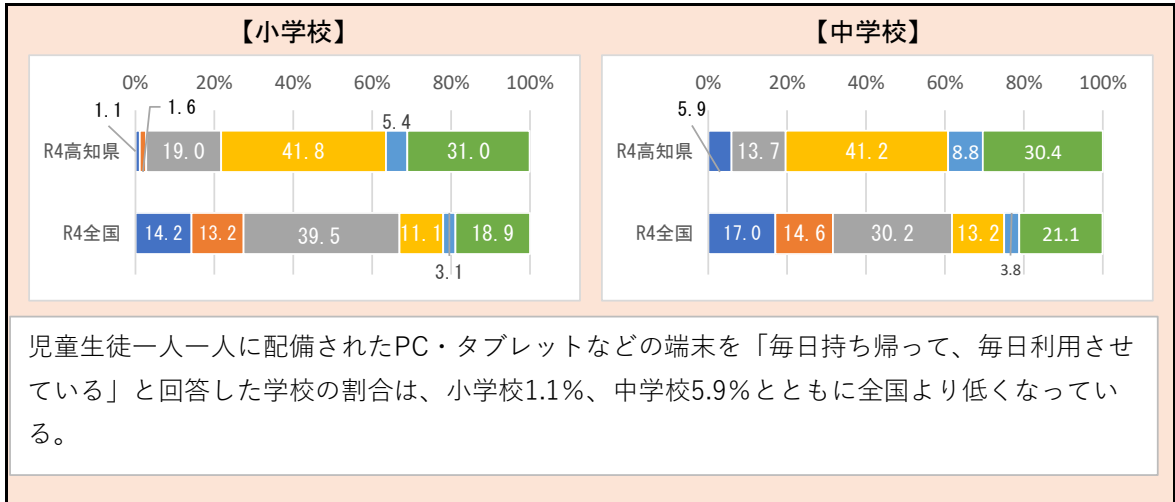
令和4年度調査結果から見られた質問項目（36）と正答率との相関



学校 質問紙	(66) (64)	児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度 家庭で利用できるようにしていますか
-----------	--------------	--

令和4年度調査結果

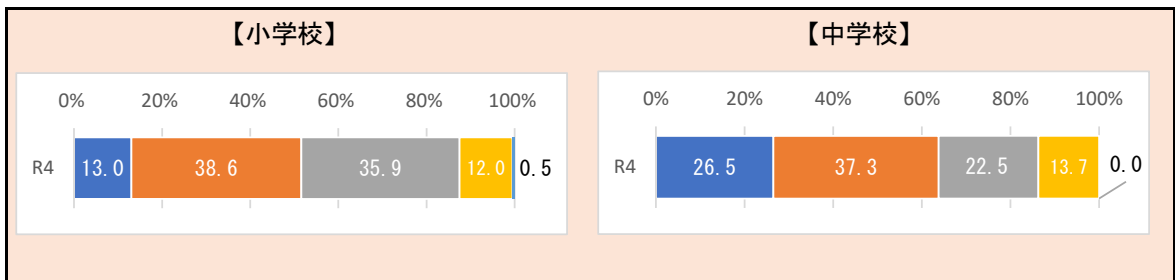
- 毎日持ち帰って、毎日利用させている
- 時々持ち帰って、時々利用させている
- 持ち帰らせていない
- 持ち帰ってはいけないこととしている
- 毎日持ち帰って、時々利用させている
- 臨時休業等の非常時のみ、持ち帰ることとしている



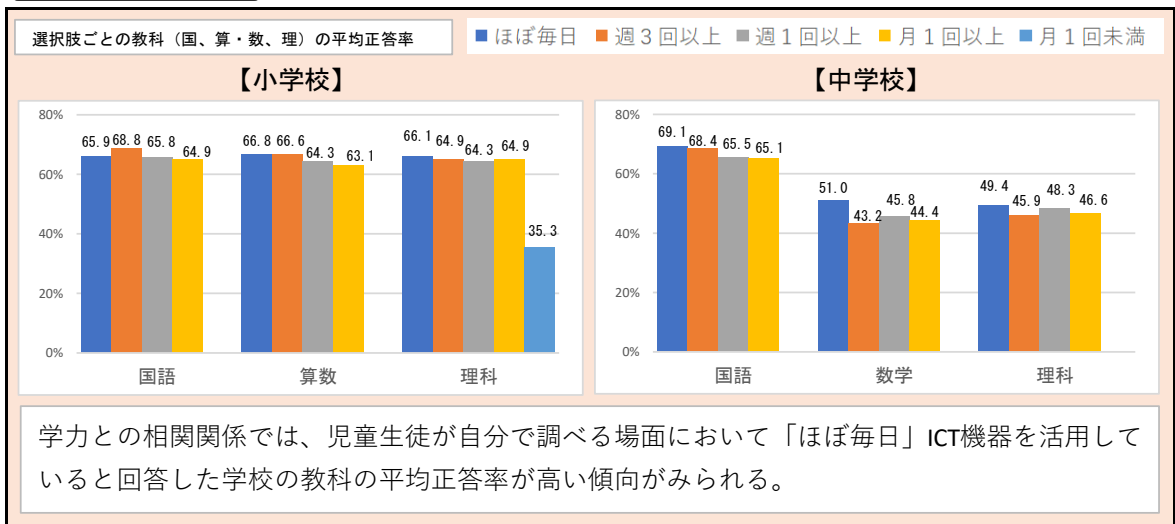
学校 質問紙	(60) (58)	調査対象学年の児童（生徒）が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか
-----------	--------------	---

令和4年度調査結果（高知県）

- ほぼ毎日
- 週3回以上
- 週1回以上
- 月1回以上
- 月1回未満



正答率との相関

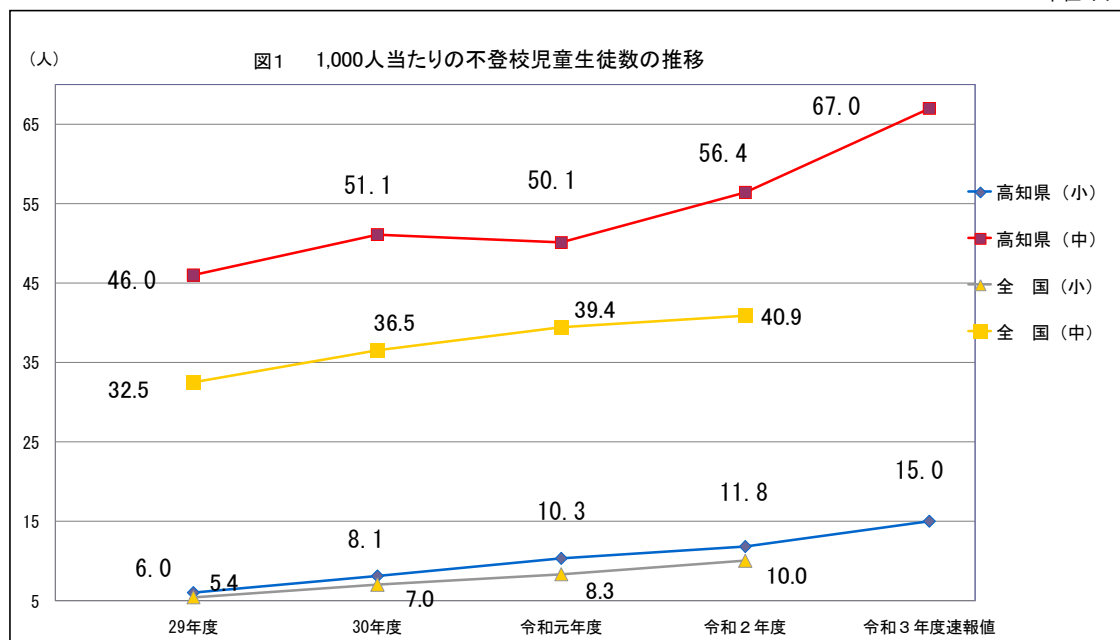


不登校対策について

※下記の表及び図の数値については、「高知県生徒指導上の諸課題・児童虐待に関する調査」及び「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」（文部科学省）によるものである。

1. 1,000人当たりの不登校児童生徒の推移（高知県：公立学校・国：国公立学校）

単位：人

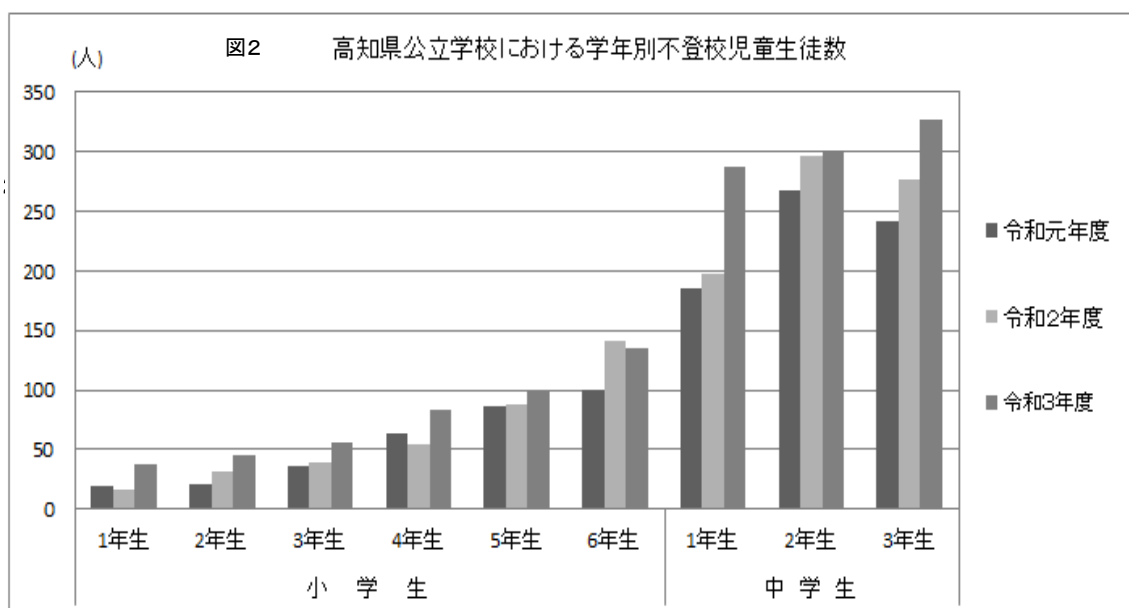


2. 高知県公立学校における学年別不登校児童生徒数

表1 高知県公立学校における学年別不登校児童生徒数

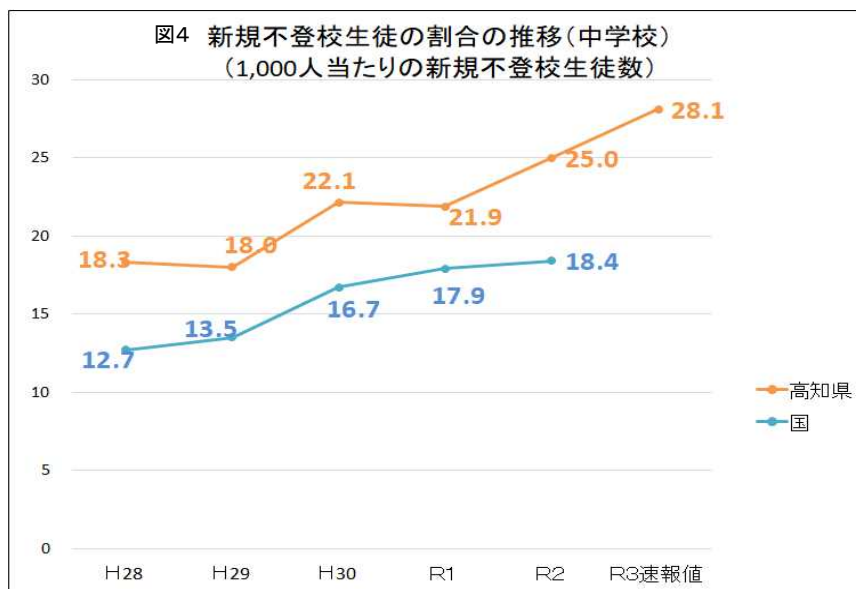
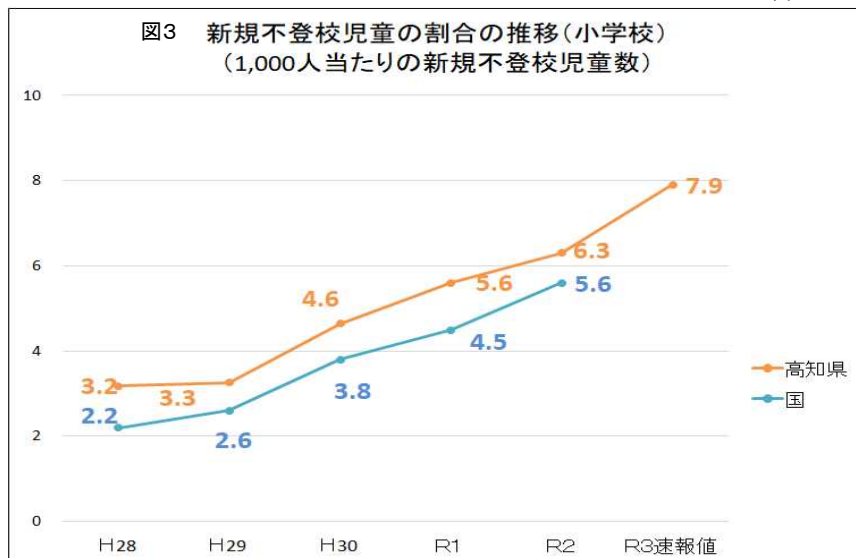
単位：人

年度	小学生							中学生				合計
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	小学校計	1年生	2年生	3年生	中学校計	
令和元年度	19	21	36	63	85	100	324	184	266	240	690	1,014
令和2年度	16	31	39	54	87	141	368	197	296	275	768	1,136
令和3年度速報値	37	45	56	83	100	135	456	286	300	325	911	1,367



3. 新規不登校児童生徒数の推移（高知県：公立学校・国：国公立学校）

単位:人



4. 不登校児童生徒への指導結果状況（公立小中学校）

表2 不登校児童生徒への指導結果状況

		高知県（公立）			全国（公立）		
		小学校	中学校	計	小学校	中学校	計
R2	不登校児童生徒数（人）	368	768	1,136	62,862	127,671	190,533
	状況が好転した児童生徒数（人）	103	291	394	17,417	35,890	53,307
	好転率（%）	27.99	37.89	34.68	27.71	28.11	27.98
R3	不登校児童生徒数（人）	456	911	1,367	(10月末公表)		
	状況が好転した児童生徒数（人）	108	216	324			
	好転率（%）	23.68	23.71	23.70			

(注) 各年度ともに1年間の指導結果を対象とし、「状況が好転した児童生徒」とは各学校が以下の例を参考に個々の児童生徒の状況に応じて判断し、継続的に登校できるようになったと認めた者をいう。

- ・1学期中は全く登校できなかったが、教育支援センター（適応指導教室）での支援を受ける中で、特定の教科の学習に興味を持てるようになり、3学期には、興味がある教科の授業がある日は登校できるようになった。
- ・中学3年生で2学期の前半までは月に1回程度しか登校できなかったが、担任が家庭訪問を繰り返す中で将来の進路などを自ら考えるようになり、その後週に1回程度は登校するようになった。

5. 令和元年～3年度 不登校担当教員配置校20校の状況

○配置校20校別の出現率及び新規不登校出現率

			不登校出現率 (%)			新規不登校出現率 (%)			
			R 1	R 2	R 3	R 1	R 2	R 3	
小学校	高知市以外	A小学校	1.28	1.52	0.87	0.43	0.87	0.00	
		B小学校	1.12	0.76	0.39	0.74	0.38	0.13	
		C小学校	0.83	0.20	0.22	0.62	0.00	0.22	
		D小学校	2.11	1.49	1.24	0.90	0.30	0.62	
		E小学校	2.24	1.31	0.67	0.96	0.65	0.33	
	高知市	F小学校	2.34	4.16	2.06	2.08	2.60	0.59	
		G小学校	1.51	1.03	0.89	0.91	0.44	0.74	
		H小学校	0.14	0.55	2.13	0.14	0.55	2.13	
		I小学校	0.91	1.10	1.69	0.37	0.73	1.31	
	小計	高知市以外小計	1.37	0.97	0.60	0.71	0.42	0.22	
		高知市小計	1.07	1.41	1.64	0.73	0.90	1.29	
		配置校小計	1.23	1.19	1.12	0.72	0.66	0.74	
		県全体小計	1.03	1.18	1.50	0.56	0.63	0.79	
	県全体と配置校の差			0.20	0.01	-0.38	0.16	0.03	-0.05
	中学校	高知市以外	A中学校	4.95	5.04	6.09	1.86	2.31	3.25
			B中学校	6.82	4.79	6.03	2.15	0.85	2.24
C中学校			4.23	5.82	6.90	2.31	2.55	1.53	
D中学校			5.75	4.45	7.28	2.68	1.21	3.07	
E中学校			3.89	4.93	6.28	0.90	1.74	3.14	
高知市		F中学校	7.13	5.60	9.60	3.26	1.80	4.99	
		G中学校	4.12	7.56	7.85	1.29	4.48	3.49	
		H中学校	6.27	9.17	9.36	2.58	4.22	4.22	
		I中学校	3.17	7.27	4.87	2.11	5.01	0.97	
		J中学校	5.90	8.23	10.87	2.80	4.11	4.35	
		K中学校	4.07	6.08	8.98	1.63	1.89	4.59	
小計		高知市以外中計	5.32	4.98	6.37	1.95	1.66	2.68	
		高知市中計	5.20	7.29	8.58	2.30	3.47	3.84	
		配置校中計	5.25	6.30	7.62	2.15	2.70	3.34	
		県全体中計	5.01	5.64	6.70	2.19	2.50	2.81	
県全体と配置校の差			0.24	0.66	0.92	-0.04	0.20	0.53	

6. 新規不登校出現率を抑制できない要因※について

※ 不登校担当教員配置校（20校）への聞き取りや、報告書の内容をもとにして、不登校対策チーム（県教委）が取組の課題を分析・整理したもの

①教員の理解不足	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校の兆しが見えた段階で、子どもの気持ちを受け止め、寄り添うといった対応ができていない。 ・子どもの特性を理解した柔軟な対応ができていない。
②校務支援システムの活用度の不十分	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席や遅刻、早退の入力を1月に1回にまとめて行うなど、早期発見・早期支援につなげていない。 ・子どもの行動や表情についての気づき情報が入力されても、見ていない教員が多い。
③情報共有の不十分さ	<ul style="list-style-type: none"> ・校内支援会で確認されたことが、学校全体で共有できていない。 ・収集した子どもや家庭の情報を組織的に共有するシステムが構築できていない。
④不登校について全教員で考える場の不足	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校への理解、対応方法について、教員同士で日常的に話し合う機会が少ない。 ・不登校になった児童生徒に対する責任を担任教員1人で背負い込んでしまい、他の職員に対してSOSが出しにくい関係性がある。
⑤取組に対する価値付けのなさ	<ul style="list-style-type: none"> ・教員が取り組んでいることへの価値付けができていない。 ・様々な取組は行うが、取組の検証が行われていない。
⑥保幼小中連携の不足	<ul style="list-style-type: none"> ・引き継ぎの際に、児童の特性や、家庭環境等の状況は引き継がれても、対応の引き継ぎまでに至っていない。 ・保幼小や小中間の情報共有や取組検討のための会議の時間がとれない。
⑦校内支援会の運営が不十分	<ul style="list-style-type: none"> ・SC、SSW等が入った支援会が行われておらず、効果的な見立てや対応策がたてられていない。 ・問題が深刻化している児童生徒のみが支援会の対象となっている。（問題を早期の段階で相談できていない。）
⑧関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒を関係機関につなげようとしても、本人や保護者の了承が得られない。 ・各機関と関係ができていないため、連携することに抵抗感がある。

7. 不登校児童生徒の背景調査（R3.11実施）

◆不登校担当教員配置校20校への調査の実施（対象：令和2年度不登校児童生徒344名）

【調査内容】 不登校児童生徒の家庭の経済状況、虐待・ネグレクト環境、家族の健康状態、本人の発達障害等

【調査結果】・生活保護家庭や就学援助率、ひとり親世帯率については、県平均と比較して大幅に厳しい水準

・本人の発達障害等の状況についても、県平均より高い数値

・家庭環境の変化（親の離婚・再婚、親の単身赴任等）も一定程度の割合

（参考）・生活保護受給率（県：2.66%、全国：1.64% H30）・就学援助率（県：26.0%、全国：14.7% H30）

・ひとり親世帯率（県：2.11%、全国：1.57% H27）

・発達障害※（県：約9.7% H29、全国：6.5% H24）※学級担任を含む複数の教員により判断されたもの（医師の診断含む）